

令和 7 年 4 月 21 日

(※受付番号 )

大 阪 市 総 合 教 育 セ ン タ ー  
教育振興担当 実践研究グループ  
首 席 指 導 主 事 様

研究コース
A グループ研究A
校舎コード (代表者校舎の市費コード)
511001

代表者	校 園 名 :	堀川小学校
	校舎長名 :	衣笠 博政
	電 話 :	6358-3336
	事務職員名 :	藤原 沙妃
申請者	校 園 名 :	堀川小学校
	職名・名前 :	校長・衣笠 博政
	電 話 :	6358-3336

令和7年度「がんばる先生支援」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (3年目)
2	研究テーマ	知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 － 問い・対話・振り返りを重視した授業改善 －			
3	研究目的	テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 1. 単元始での問い、展開での対話、単元末の振り返りを重視することで、見通しを持ち主体的に学びに向かう児童を育成する。 2. 系統を意識することで、基礎・基本を定着し、応用的な力を育成する。 3. 本校の研究の積み重ねを活用し、「教えること」「気づかせること」に重点を置き体力の向上を図る。 4. 学習中の言葉に着目し、「学習の言葉：学習用語」「関わりの言葉：支える言葉、関わる言葉」を豊かにし協働する学びを研究する。 5. 教職員の学びの場を保障し、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校力を向上させる。			
4	研究内容	(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 教育基本法の「知徳体のバランスのとれた質の高い教育」は全ての教育の基本となる考え方である。誰一人残さず、意欲を高め学びを深めるためにも、この3つのバランスのとれた研究の必要性を感じた。教員の学ぶ場の保障が児童の育成や学校力に大きく関わるため、以下のように研究内容を整理した。 【授業づくりの変革】 児童が受け身の授業から脱却し、児童主体となる学びへの授業改善を以下の3点に注力し実行する。 ・単元始の問い、見通し、方向性を児童と共有し学びのベクトルを合わせる。 ・集団で学ぶよさである対話、協働に焦点をあて互に関わり合う学びを展開する。 ・単元末に、学習内容と学び方、関わり合いを振り返る。 【本校の研究の蓄積を活用】 ・国語科の研究を5年、体育科の研究を2年重ねてきた。知徳体をバランスよく育成するために、知：国語、体：体育を中心に研究する。そして、今年度は徳にも力を入れ、集団の中での友だちとの関わりを大切にす。学習の言葉：教科の用語と関わりの言葉：支える言葉、関わる言葉を指導者が意識することで、あたたかい学びとなるだろう。 【理論研修会、教材分析研修会、実技研修会、集団づくり研修会の充実】 ・教員の学ぶ場を保障する。知の代表である国語の教材分析研究会、体の代表である体育の実技研修会、徳の集団づくり研修会を熟達者や大学教員から直接学ぶことで、全職員の授業像、児童像のゴールイメージが共有化される。教員の豊かな学びは、学校づくりの柱となる。この学びの場は、可能な限り公開していきたい。 【児童の学びの変容を可視化】 ・知徳体のバランスよい育成は、児童の学びを変容させ学校生活にも影響を与えると考えている。検証するために、学力調査の分析に加え、学校満足度や集団の結びつき調査をすることで多方面での成長を可視化できるよう検証方法を工夫する。			
		(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する 【成果】年間を通して知・徳・体のバランスよく研究を進められたことにより、アンケートで教職員の指導力向上・児童の学力向上・仲間意識の向上が明らかになった。また、児童が自ら学ぶ姿へ変容を見せつつある。 【課題】大規模校であるため教職員が自分ごととなる研究の推進をする。児童の問い・振り返りを充実させる。 上記の成果と課題から、(1)の研究内容を引き継ぎながら、重点項目として次の点を挙げる。 【授業づくりの変革】問いの種類を整理し、自ら学びにアクセルする児童の育成を図る。振り返りを充実させ学習内容と学習方法を外化する。【研修の充実】1枚ポートフォリオを参考に教員の学びをつなげ、教員の学びにも問い・対話・振り返りを意識できるように手立てを工夫する。【児童の学びの変容】アンケート項目に学びが好き・できる・分かるを追記し、多面的に児童の姿を把握できるようにする。			
		(3)継続研究 [3年目] 【成果】問い・振り返りの学習のサイクルはできつつある。対話のルーブリックは効果的であった。1枚ポートフォリオを活用した教師の学びの可視化は効果的であった。【課題】単元始めから評価を意識した授業づくりをする。 上記の成果と課題から、(1)の研究内容を引き継ぎながら、重点項目として次の点を挙げる。【教科を決めない】教科を決めず知徳体バランスよく研究を推進する。【知徳体部会の設置】各自の実践の交流、蓄積、整理のために新たな部会を設置する。【ポートフォリオの継続】昨年度効果的であったポートフォリオを継続し、児童の学び・教師の学びの両輪で研究を推進し、学力向上と学校満足度向上をめざす。アンケート項目は昨年度変更したのでそのままとし、経年で児童の変容を確認できるようにする。			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月【研究企画会】研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討 【研究推進委員会①】・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化。アンケートを作成 【研究全体会・全体研修会①】研究内容と年間計画の共通理解を図る。 【全体研修会②集団づくり】学級づくり・児童との関わりを学ぶ</p> <p>5月【研究推進委員会②】児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 【知徳体部会①】3つの部会に分かれて実践交流・整理を行う</p> <p>6月【授業研究会①5年国語】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授 【授業研究会②6年体育】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授</p> <p>7月【知徳体部会②】1学期の実践の振り返り</p> <p>8月【全体研修会③教材分析】講師：明星大学 白石範孝教授</p> <p>9月【知徳体部会③】2学期以降の重点取り組み内容を整理</p> <p>10月【授業研究会③1年算数】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授</p> <p>11月【がんばる先生支援研究発表会】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授 【授業研究会④3年体育】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授</p> <p>12月【全体研修会④伝達研修会】参加者がレポートを作成し学びを共有 【全体研修会⑤体育実技研修】講師 筑波大学附属小学校 齋藤直人教諭</p> <p>1月【全体研修会⑥集団づくり】講師 沖本和子先生</p> <p>2月【授業研究会⑤2年国語】（指導案検討・授業・協議会）講師：関西学院大学 佐藤真教授 【筑波大学附属小学校 公開研究会 参加】 【研究推進委員会③】・学力経年調査の結果分析 ・児童、教員アンケートの実施・分析 ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月【研究推進委員会④】研究のまとめ作成 【研究全体会・全体研修会⑦】次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p>
		<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p> <p>11月「新潟大学附属小学校 公開授業」に参加し、新たに得た知見を知徳体部会で議論し実践にいかす。 2月「筑波大学附属小学校 公開授業」に参加し、経年で参観している対象校からの学びを研究のまとめに活用する。 授業研究会の指導助言 講師：関西学院大学 佐藤真教授 年4回実施 国語科教材分析研修 講師：明星大学 白石範孝教授 体育実技研修 講師：筑波大学附属小学校 齋藤直人教諭、 集団づくり研修 講師：沖本和子先生</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <div><input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。理由 経年にわたって、成果を検証するため</div> <div><input type="checkbox"/> 変更する。</div>
		<p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</u>」の育成および、「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことのできる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <div><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</div> <div><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</div> <p>問いを持ち学びを続ける授業改善により、主体的に学ぶ姿勢を育成できる。単元末の振り返りにより、他の学びにつながる気づきを促すことで、学びの質が向上する。新しい学びをする際、既習の学びを振り返り活用する姿が見られる。「次何をするの？」という児童の声から「次はこれをしたい」という児童の声へ変わっていく。学びの言葉や振り返りに授業の内容が表現されていく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」の伸びに加え、「主体的に学習に取り組む態度」の伸びを検証する。児童アンケートの「学習は先生が教えてくれるもの」の回答割合が減り、「学習は自分で学んでいくもの」の回答割合が増える。学びの言葉や振り返りを検証することで、授業を振り返ることができる。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <div><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</div> <div><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</div> <p>関わりの言葉を大切にしているので、学びの中で互いに支え合い、関わり合う学級風土ができる。集団の良さを教員も児童も感じることで、豊かな学びを展開することができる。一人も残さない学びは、関わりの言葉が大きく影響する。得意なことも苦手なこともチャレンジする意欲を育成し、学びに対して前向きな児童を育成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>授業の満足度が学級の満足度、学校満足度につながっていると仮説を立てたため、児童アンケートの「学級の安心感」「苦手なこともにもチャレンジしようと思う」「友だちが支えてくれた」の項目の肯定的割合が8割以上となる。児童の学びを近くで見ている保護者へアンケートから、児童の学びへの満足度が8割以上となる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>教員の学ぶ場を知徳体バランスよく保障することで、学習指導力と学級経営力が向上する。このことは、児童の満足度や学級での居心地の良さにつながる。また、公開授業研究会で実際に授業を見た参加者が満足し、取組内容を実践することで本研究が広まっていくこととなる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員アンケートから「授業づくり」「学級経営」に関する項目の肯定的割合が8割以上となる。児童アンケートの「学校満足度」「学級満足度」「集団の結びつき」の項目の肯定的割合が8割以上となる。公開授業研究会に参加した教員アンケートの満足度が8割を超える。本校の取り組みを実践する割合を8割以上となる。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>本校は大規模校であるため、教員数や経験年数もさまざまである。その中で、校内研究として大学教員からの理論研修、先進的研究校からの教材分析研修、実技研修、集団づくり研修を共有することで、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校で共通理解できる。このことは、学校力向上に大きな役割を果たす。教員のめざす授業イメージが共有化でき、教員が満足して授業づくりに打ち込むことができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員アンケートを実施し、「授業づくりの悩みが改善した」「研究の内容が実践につながった」の肯定的割合が8割を超える。学校満足アンケートを実施し、満足度が8割を超える。その理由をインタビュー調査することで、肯定的割合の要因を分析する。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="461 842 1321 902"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 11 月 12 日</td> <td>場所</td> <td>堀川小学校</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 wakur2.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="461 954 940 1014"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 24 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 7 年 11 月 12 日	場所	堀川小学校	日程	令和 8 年 2 月 24 日
日程	令和 7 年 11 月 12 日	場所	堀川小学校					
日程	令和 8 年 2 月 24 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目）</p> <p>上記にも記載したが、本校は大規模校であり教員の置かれた立場もさまざまである。その中で、各教員が学校運営、授業づくり、学級経営を精一杯推進している。それを支えるためにも、教員が学びアップデートできる研修、学校として共通した像を具体的に持てる授業、先進的研究校へ学びに行く機会を保証したい。教員の学びは、直接的にも間接的にも児童へ還元される。この好循環が学校力を向上させる柱となることと信じている。ぜひ、この研究を推進させていただきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>教育改革の波が押し寄せている。だが学校に求められている改革が山積し、教員が疲弊することを防ぎたい。そこで改めて、教育基本法が謳う知徳体に焦点を当て、人格の形成の根幹を問い直したい。学びは誰のもののかを問い、児童が学びたいと思う授業へ変革する。学校に集う意味を考え、集団で取り組む素晴らしさを問い直したい。人生100年時代の今、生涯体育が求められている。体育への向き合い方を問い直したい。根幹を問い直し、令和の現代に求められる教育とは何か、本校の児童に求められている教育とは何かを問い続けることで、新しい教育が見えつつある。今年度も、意欲ある本校の教職員と学び合い、その成果を大阪市に広めたい。ぜひ、本研究への助成をお願いしたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>昨年の北区教員研究発表会で本校の研究発表は大きな反響を得た。本校の研究方法を参考に研究したいと複数校から連絡があった。「学力体力をつける児童」「主体的に学ぶ児童」「楽しい学校」という児童の結果に加え、「授業力をつける教師」「主体的に学ぶ教師」「楽しい学校」という教師の結果を発表したからである。児童の学びと教師の学びは相似形である。児童の幸せと教師の幸せは共に実現したいと学校運営を行なっている。それを研究システムの中で実現していく一旦を発表したことへの反響であると考えている。だが、本校の研究はまだ道半ばである。研究の方向性は間違っていないことは、他校からの反応で確信を得たので、最終年度の研究を推進する中で児童も教師も自己実現を果たし、幸せな学校へと向かう研究を実現させる力をいただきたい。</p>						